

## 船舶事故調査報告書

平成27年2月19日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成26年9月2日（火） 21時22分ごろ
発生場所	東京都港区の品川ふ頭北西端付近 東京都品川区所在の東京13号地船舶通航信号所から真方位 311° 1.2海里付近 （概位 北緯35° 38.0′ 東経139° 45.2′）
事故調査の経過	平成26年9月3日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客船 第十七船 <sup>ふなせい</sup> 清丸、19トン 235-25093東京、株式会社船清（A社） 11.84m（Lr）×4.25m×0.79m、FRP ディーゼル機関、139.75kW、平成2年9月
乗組員等に関する情報	船長 男性 31歳 一級小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成21年2月19日 免許証交付日 平成26年6月2日 （平成31年6月1日まで有効） 副船長 男性 41歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成13年2月5日 免許証交付日 平成23年1月27日 （平成28年2月4日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	本船 右舷船首船底及び右舷船首外板に擦過傷 栈橋 波除板の割損
事故の経過	本船は、船長及び副船長が乗り組み、旅客16人を乗せ、船首約0.4m、船尾約1.3mの喫水で、船長が単独で操船に当たり、港区台場付近及び隅田川河口付近を遊覧後、品川ふ頭北方沖を、約5ノットの対地速力で航行した。 本船は、京浜運河に架かる港区の港南大橋の下を航行しようとして品川ふ頭北西端沖で左転して同運河の北口付近を南進中、船長が港南

	<p>大橋の西端付近に停泊している台船に目を向けていたところ、平成26年9月2日21時22分ごろ、‘港南大橋北方の船溜まり沖にある棧橋’（以下「本件棧橋」という。）に沿って付設された波除板に乗り揚げた。</p> <p>船長及び副船長は、旅客の安否及び船体の損傷状況を確認し、A社に連絡していたところ、乗揚を目撃していた水上警察の警備艇が来援したので、旅客を同警備艇に移送させ、海上保安庁に通報した。</p> <p>本船は、22時50分ごろ来援した僚船により引き出され、品川区のA社棧橋に自力で帰った。</p> <p>（付図1 事故発生経過概略図、写真1 本事故海域の状況 参照）</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 東、風力 2</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 高潮時</p>
その他の事項	<p>波除板は、本事故時、高潮時であり、ほぼ水没して見えにくくなっていた。</p> <p>船長は、A社において約1年間の研修を受けた後、平成26年4月から船長職に就いており、本事故海域の状況を熟知していて、ふだん、京浜運河を南進するときは、本件棧橋寄りを航行していた。</p> <p>船長は、ふだん、A社が所有し、操縦席が船首にある別の僚船に船長として乗船しており、本事故当時、休暇を取っていた本船の船長に代わって本船に乗船していた。</p> <p>船長は、ふだん、A社棧橋への離着棧時に本船の操船を行っていたものの、夜間に旅客を乗せて本船を操船するのが2回目であり、本事故時、帰着予定時刻に遅れそうだったので、急いでいた。</p> <p>船長は、事前にA社から、港南大橋の西端付近に台船が停船しており、灯火を点灯しているものの、暗くて見にくいので気を付けるよう連絡を受けており、本事故時、台船の灯光に注意を向けていた。</p>
分析	<p>乗組員等の関与 あり</p> <p>船体・機関等の関与 なし</p> <p>気象・海象等の関与 なし</p> <p>判明した事項の解析</p> <p>本船は、品川ふ頭西側の京浜運河北口付近を南進中、船長が、京浜運河に架かる港南大橋の西端付近に停泊している台船に注意を向けていたことから、本件棧橋に向けて航行していることに気付かず、本件棧橋の波除板に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、帰着予定時刻に遅れそうで急いでいた上に、港南大橋の西端付近に停泊している台船の灯火が暗くて見えにくい状況であったことから、台船に注意を向けていた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、品川ふ頭西側の京浜運河北口付近を南進中、船長が、京浜運河に架かる港南大橋の西端付近に停泊している台船に注意を向けていたため、本件棧橋に向けて航行していることに気</p>

	付かず、本件棧橋の波除板に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・航行中は、常に全周囲の見張りを適切に行うこと。</li> </ul>

付図1 事故発生経過概略図

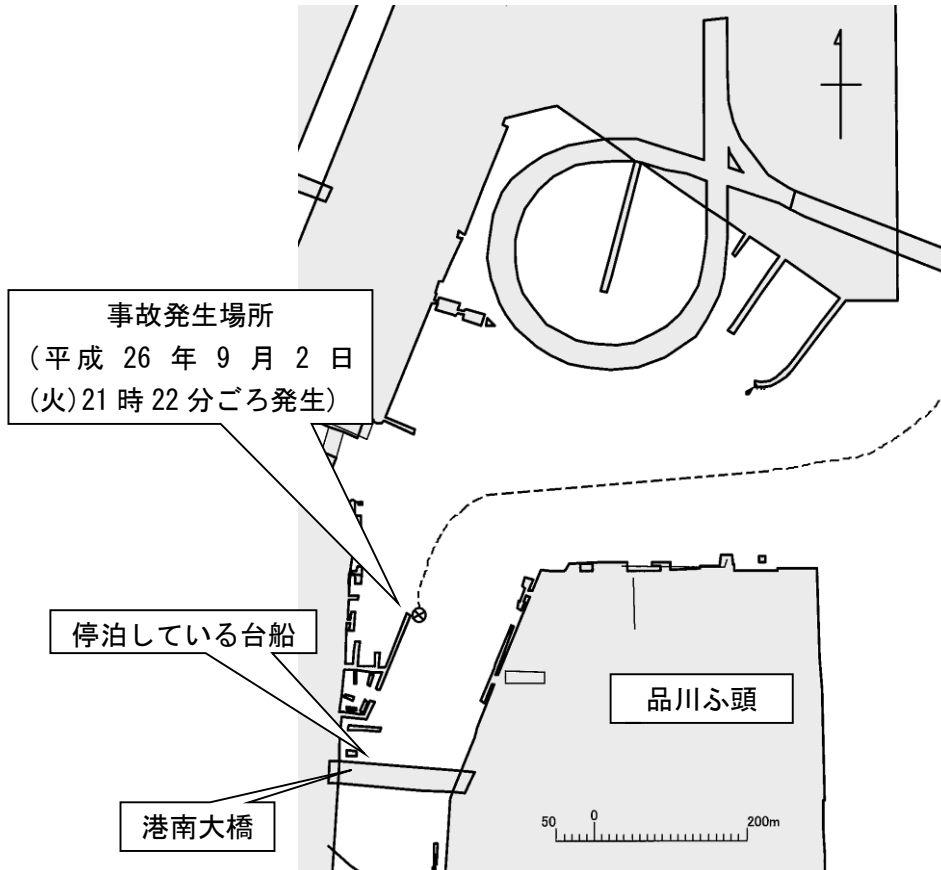


写真1 本事故海域の状況

